

中国黒龍江省の対ロシア貿易の現状と国境地区への影響

日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域研究センター 平泉秀樹

1. 黒龍江省の対ロシア貿易の簡単な歴史

黒龍江省は、ロシアと3,000km以上に及ぶ国境を共有していることや、国境をまたいだ長年の交流の歴史があることなどから、中国の対ロシア貿易において相対的に大きな地歩を占めてきた。その長い歴史において、国境間の地方貿易は18世紀初めから19世紀初めまでの民間貿易期、1917年のロシア革命以降の官製貿易期、そして1990年代以降の民間貿易期へと変遷してきた。

1917年のロシア革命後、中ソ貿易に占める中国東北地域の比率は圧倒的に高かった。1924年には中国の対ソ輸出総額中に占める東北地域の比率は97%、中国の対ソ輸入総額に占める同地域の比率は75%に達していた。この時期、東北地域の対ソ通商口（中国では「口岸」と呼ぶ）は中東鉄道に沿った満洲里、ハルビン、ハイラル、綏芬河、黒龍江（ロシア名「アムール河」）沿いの同江、黒河などであり、その中でもハルビンは東北地域の対ソ貿易の90%以上を占めていた¹。この時期、ソ連邦では国家が貿易を独占していたが、黒龍江、烏蘇里江（ロシア名「ウスリー河」）沿岸地帯では密貿易が盛んに行われ、現在も対ロシア貿易の基地となっている満洲里、黒河、同江、富錦、虎林、密山、綏芬河、琿春などでは多くの商店が現れた²。しかし、1935年に日本軍が黒河に進出した後、中ソ辺境貿易は完全に停止した。

中ソ国境間で貿易が再開されるのは1957年であり、この時期、中国、ソ連邦とも貿易の国家独占制度をとっていたため、国境間貿易も官製（中国側の省政府所属地方事務所商業局とロシア側の地方消費協力社の間で行われた）となった。商品価格はルーブルで算定し、原則として等価の物々交換でおこなわれた。1957年には黒龍江省黒河市とアムール州ブラゴベシチェンスク市の間でのみ交易が行われたが、1958年には牡丹江地区事務所とソ連邦沿海地方消費協力社、合江地区事務所商業局とハバロフスク消費協力社の間でも貿易が行われるようになった。このような国境間貿易は中ソ対立が悪化する1966年まで続けられたが、それ以降、1983年まで中断された。この時期の黒龍江省の対ソ貿易は、1957年の10万ルーブルから1960年には617.2万ルーブルへと急増したが、その後減少し、1966年には17.6万ルー

ブルであった。

1983年に中ソ政府間の合意に基づいて、黒龍江省綏芬河市と沿海地方グロデコボ区、内モンゴル自治区満洲里市とチタ州ザバイカリスク区の間で、スイスフラン建ての易貨（バーター）貿易方式で官製貿易が再開された。その後、取引地方は1987年には黒河市とブラゴベシチェンスク市、黒龍江省同江市とユダヤ自治州ニージーレーニンスコエ区にも拡大された。さらに、1988年には黒龍江省、吉林省、内モンゴル自治区と新疆ウイグル自治区、全国の省都に対して対ソ貿易権が与えられた。これに合わせて、黒龍江省では密山、虎林、饒河、漠河、嘉陰、羅北など六カ所の口岸が開放された。この時期、黒龍江省の対ソ貿易は1983年の1,589万スイスフラン（749万米ドル相当）から1992年の20.72億スイスフラン（15.9億米ドル相当）へと増大した。対ロシア貿易は、1993年には18.93億ドルにまで増大したが、その後は1990年代末まで7～9億ドル台に減少・停滞した。2000年代に入り貿易額は一貫して増大し続けたが、2009年には前年に比べて50%近くも減少した（後述）。

2. 黒龍江省貿易のさまざまな方式

中国の貿易方式には通常の貿易方式である一般貿易のほかに「辺境貿易」があり、黒龍江省には「旅行貿易」とよばれる特殊な方式の貿易がある。

2-1. 辺境貿易

「辺境貿易」は、国境間の地方貿易に対して一般に呼称される「国境貿易」とは異なる中国特有の概念である。「辺境貿易」とは、要言すれば、国が指定した国境地方（「辺境地方」と呼ばれる）が行う貿易のうち、国が定めた規則に従って行われる貿易（交易）に対し、税制上の優遇措置を与える制度である。辺境貿易には企業が行う「辺境小額貿易」と個人が行う「互市貿易」があり、辺境小額貿易は国境周辺に設置された「口岸」を通じて行い、互市貿易は専用に設定された「互市貿易区」（規定では国境線から20km内であるが、現実には5～60kmに位置するものもある）で行う。黒龍江省の場合、空港、内陸河川の口岸を除く16カ所（水路10カ所、道路5カ所、鉄路1カ所）が辺境

¹ 孟憲章主編『中蘇経済貿易史』黒龍江人民出版社、1992年、249ページ。

² 同上、233ページ。

貿易口岸として指定され（表1）、そのうち10カ所に「互市貿易区」が設けられている。

このような辺境貿易制度は、1984年12月に対外貿易部(当時)が「辺境小額貿易暫定管理法」を發布したことに始まる。この規定は1991年4月の国務院(中国中央政府)による「経貿部などの〈辺境貿易と経済協力を積極的に発展させ、辺境の繁栄と安定を促進させる意見に関する通知〉への回付」、1996年1月の国務院による「辺境貿易に関する問題についての通知」、1996年3月の対外貿易経済協力部等による「辺境小額貿易と辺境地区対外経済技術協力管理方法の通知」、1998年11月の対外貿易経済協力部などによる「辺境貿易のさらなる発展のための拡充規程」において拡充、発展してきた。しかし、2008年10月に国務院が發布した「辺境地区経済貿易発展促進問題に関する回答」によって、税優遇措置に大きな変化が生じた。これまでは、企業間の貿易に対して輸入にかかわる税率が半減徴収されていたが、その規定が撤廃された。一方、国が定めた密閉区域(満洲里や黒河は市内全域が互市貿易区として指定され、ロシア人はビザなしで来訪できる)で行われる「互市貿易」

に対しては、輸入免税額が3,000元から8,000元に拡大された。

2-2. 旅行貿易

旅行貿易とは、中国人あるいはロシア人が旅行を名目として相手国に入国し、商品の購入・販売をおこなう取引である。このような形式の取引は、ソ連邦の経済が混乱、疲弊し始めた1980年代末から始まったといわれている。中国人、ロシア人とも、行う貿易は統計上中国側の輸出になるが、中国商人は多くの場合、「灰色通関」と呼ばれる方法で商品を輸出しているため、その規模は把握し難く、貿易統計には出ていない。中国商人は、中国からロシアに自己あての商品を税金、手数料込みで貿易代理会社に通関・輸送を委託し、自身は旅行形式でロシアに入国した後、別送した商品を受け取り、中央・地方の卸売・小売市場で販売する。貿易代理会社は、複数の商人の輸出をまとめて一つの輸出として通関を行う(「灰色通関」)。その際、通関申告額は実際価額の10分の1ほどが相場であると言われており、ロシアにとって関税収入が少なくなる被害が出ている。また、実際価額よりも廉価な商品の輸入は、ロシア軽工業

表1 黒龍江省の対ロシア口岸(空港及び内陸河川口岸を除く)

ロシアの対応行政区	口岸名=ロシアの対応地点	通行手段	開放度	通行対象
チタ州	洛古河=ボクロフカ(Покровка)	自動車(冬)	中口	貨物
アムール州	漠河=ジャリンド(Джалинда)	船(自動車)*	国際	人、貨物
アムール州	呼瑪=ウシャコボ(Ушаково)	船(自動車)*	国際	人、貨物
アムール州	黒河=ブラゴベシチェンスク(Благовещенск)	船(自動車)*	国際	人、貨物
アムール州	孫吳=コンスタンチノフカ(Константиновка)	船(自動車)*	国際	人、貨物
アムール州	遜克=ポヤルコボ(Полярково)	船(自動車)*	国際	人、貨物
ユダヤ自治州	嘉陰=パシュコボ(Пашково)	船(自動車)*	国際	人、貨物
ユダヤ自治州	羅北=アムールゼト(Амурзет)	船(自動車)*	国際	人、貨物
ユダヤ自治州	同江=ニジニレニンスコエ(Нижнеленинское)	船(自動車)*	国際	人、貨物
ハバロフスク地方	撫遠=ハバロフスク(Хабаровск)	船	国際	人、貨物
ハバロフスク地方	饒河=ボクロフカ(Покровка)	自動車	中口	人、貨物
沿海地方	虎林=マルコボ(Марково)	自動車	中口	人、貨物
沿海地方	密山=トゥリー・ログ(ТурийРог)	自動車	中口	人、貨物
沿海地方	綏芬河=ポグラニチヌイ(Пограничный)	鉄道	国際	人、貨物
沿海地方	綏芬河=ポグラニチヌイ(Пограничный)	自動車	国際	人、貨物
沿海地方	東寧=ポルタフカ(Полтавка)	自動車	中口	人、貨物

(注) *冬季、河川が凍結した時に自動車使用。現地情報によれば(2008年5月)呼瑪および孫吳は実際には稼働していないとのことである。

都市名は互市貿易区がある都市。

(出所) Соглашение между правительством Российской Федерации и правительством Китайской Народной Республики о пунктах пропуска на Российско-Китайской государственной границе от 27 января 1994 г. (「中口国境における通行地点に関するロシア連邦政府と中華人民共和国政府間の協定 1994年1月27日」)、Распоряжение ГТК России от 4 октября 2001 г. N961-р "О пунктах пропуска через государственную границу Российской Федерации" (国家税関委員会指令「ロシア連邦の国境通過地点について」(http://www.fta.ru/show_orders.php?action=view&filename=01r00961))。

を壊滅状態にしているとも言われている。このため、ロシア政府はたびたび市場での商品調査と没収を繰り返してきたが、灰色通関による商品の販売を根絶するため、2007年4月以降、外国人によるロシア国内での小売業務への全面禁止措置を導入した。さらに、2009年6月には、モスクワの大市場「チェルキゾフ」が衛生基準違反を口実に閉鎖されたが、これは灰色通関を通して流入した商品の販売に対するロシア政府の毅然とした対応であった。プーチン首相は、2009年12月、チェルキゾフ市場の閉鎖によって密輸と偽造製品が減り、その結果、国産の軽工業製品生産が増加したと述べた³。

一方、ロシア人の旅行貿易はそれが行われる地区によって異なる方法で行われているようであるが、いずれも「パマガイカ (помогайка)」と呼ばれる一種の「担ぎ屋」たちが重要な行為者となっている。内モンゴル自治区満洲里市では、「バゴンシク (погонщик)」と呼ばれるまとめ役が配下にいくつかの「ケメル (кэмель)」と呼ばれる車団を有し、輸送業者から受け取った商品類を個人の通関可能なように分包・分配し(ロシアの規則では、一人35kg内の個人商品持込みは無税。同じ種類の商品の場合、輸入とみなされるため、異なる商品に区分けする)、ロシア通関・入国後、再度商品を集めて依頼主に運んでいる。パマガイカに対しては依頼主が旅行代金を支払っている(図1パマガイカの形式1)。これに対し、プリモリーエ地方では、旅行会社が正規料金の何割かで旅行できる「エコノ

ムツアー」とよばれるグループ旅行を組織している。正規料金とエコノムツアー料金の差額は、それを利用する商人が観光会社に支払う。ツアーでは責任者(гид)が中国側商人から商品を受け取り、満洲里と同様に、商品類を個人の通関可能なように分包・分配し、ロシア通関・入国後、再度商品を集めて依頼主に運んでいる(図1パマガイカの形式2)。黒龍江省では2000年後半から旅行貿易が貿易統計として計上されるようになったが、これはロシア人による商品購入のみである。

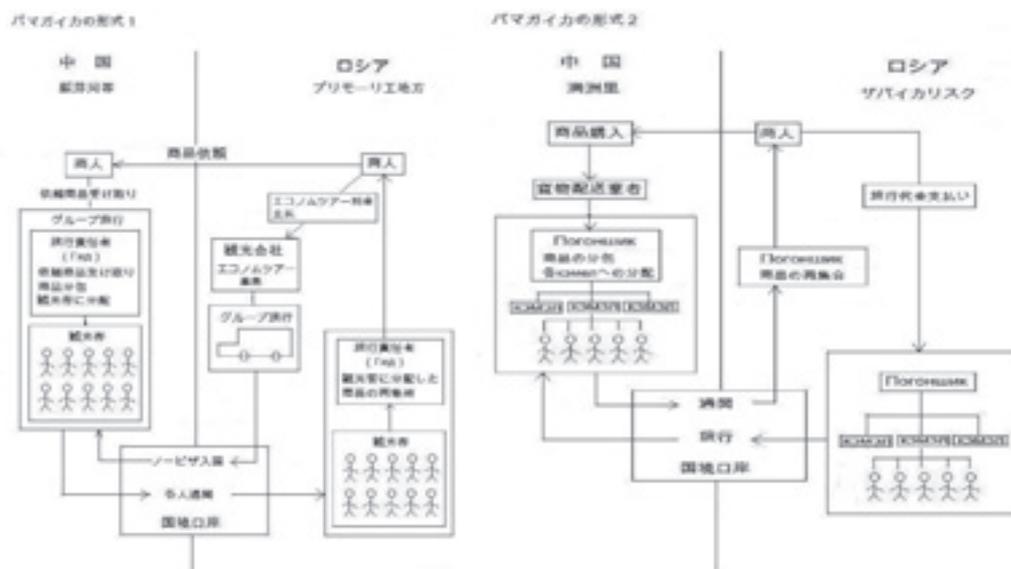
3. 1990年代以降の対ロシア貿易

3-1. 貿易推移と変化の要因

1990年代以降の黒龍江省の対ロシア貿易(以下「黒口貿易」)は、停滞期(1994~1998年)、回復期(1999~2001年)、発展期(2002~2007年)そして2008~2009年の調整・急減期⁴に分けることができる。

停滞期の1998年には、それまでの黒口貿易過去最高額(1993年18.9億ドル)の35%にまで減少した。これにはいくつかの原因があるが、輸出面では黒龍江省が相手とするロシア極東地域(以下「極東地域」)の経済が1994年以降急激に悪化し始めたこと、ロシア人による中国製消費財(偽ブランドや低品質製品)に対する敬遠、ロシアによる中国からの輸入規制政策(高関税化)などがあり、他方、輸入面では中国の経済引き締め策による原材料需要の減少が大きな要因として挙げられる。

図1 パマガイカの形式



(出所) 筆者作成。

³ <http://www.rian.ru>, 2009年12月3日付。

⁴ 2008年の黒口貿易額は増加したが、輸出額が減少し、これまでに見られたような輸出牽引型の貿易増加とは異なるために、ここでは発展期から外した。

1999年には前年比38%の増加を記録し、これ以降2001年まで過去最高額を超えることはなかったが、貿易額は増加し続け、2001年には18億ドルに達した。2002年には過去最高額を超え（23.33億ドル）、これ以後も2008年まで一貫して増加し続けた。しかし、2009年には、世界的な金融・経済危機の影響を受けて、貿易額は前年に比べて54.8億ドルも減少した（対前年49.6%減少）。

1999年からの急速な黒口貿易の回復・発展は、中口国家間関係の改善という要因のほかに、極東地域経済の復興過程も大きな影響を与えた。極東地域の地域総生産は、長い縮小再生産の過程を経て、1999年からは拡大再生産の過程を始めた。極東地域経済は、その規模が最も縮小した1998年を基準（100）としたとき、発展期が始まる2002年には120にまで拡大し、輸出入格差が急激に拡大し始める2005年には141.9にまで拡大した。このような極東地域経済の復興・発展過程は、特に住民の所得を増加（消費意欲を増大）させ、極東地域の消費財輸入を拡大させたと考えられる。極東地域の輸入は中国側の輸出であり、特に、極東地域と最も貿易関係が大きい黒龍江省からの輸出であるとみなすことができる。

そこで、以下ではこの時期の黒口貿易の促進要因を輸出と輸入の関係および輸出商品品目の推移から検討しておきたい。黒口貿易は、2002年までは黒龍江省側の輸入が輸出を上回っており、貿易赤字が続いていた（表2）。

しかし、2000年から輸出増加率が輸入を上回るようになり、2003年以降、輸出額が輸入額を上回るようになった。特に2005年以降、輸出入格差（黒字）は急激に拡大した。回復・発展期（1999～2007年）に、輸出は35.2倍、輸入は3.7倍増加し、2007年には黒字額が56億米ドルにまで増大した。黒龍江省の貿易（以下「省貿易」）総額に占める対ロシア比率は、2001年以降5割を超えており、2007年には62%に達した。

黒龍江省貿易統計には黒口貿易の商品内訳がないため、輸出商品の推移を厳密に調べることはできないが、対ロシア比率の大きさから見て、省貿易の輸出商品動向によって黒口貿易における商品動向もかなりの程度理解できると考えられる。回復・発展期（1999～2007年）に省輸出は108.18億ドル増加した。そのうち、布製衣類（増加額50.76億ドル、省輸出増加に占める比率46.9%）と靴類（9.42億ドル、同8.7%）で全増加額の55.6%を占めている。その他

表2 黒龍江省の対ロシア貿易推移

(単位：億米ドル)

	黒龍江省総貿易			対ロシア貿易										
	総額	輸出額	輸入額	総額	輸出額	輸入額	辺境小額貿易			旅行貿易	一般貿易等			
							総額	輸出額	輸入額	輸出額	総額	輸出額	輸入額	
1993	32.9912	16.8653	16.1259	18.9344	8.4265	10.5079	-	-	-	-	-	-	-	-
1994	24.2560	12.4130	11.8430	8.0082	2.9118	5.0964	-	-	-	-	-	-	-	-
1995	23.8645	11.6641	12.2004	7.0265	2.1040	4.9225	-	-	-	-	-	-	-	-
1996	24.4922	10.8210	13.6712	8.0257	2.0988	5.9268	2.3536	0.7073	1.6463	-	5.6721	1.3915	4.2805	
1997	24.6298	13.0724	11.5574	7.9306	3.2954	4.6351	6.9909	2.714	4.2769	-	0.9397	0.5814	0.3582	
1998	20.1047	9.0611	11.0436	6.6970	1.7583	4.9388	6.0661	1.2477	4.8184	-	0.6309	0.5106	0.1204	
1999	21.9127	9.5023	12.4104	9.1670	2.3198	6.8427	7.7115	1.2016	6.5099	-	1.4555	1.1182	0.3328	
2000	29.8620	14.5101	15.3519	13.7178	4.6499	9.0983	10.1365	1.4476	8.6889	-	3.5813	3.2023	0.4094	
2001	33.8454	16.1218	17.7236	17.9891	7.7952	10.1938	10.9162	1.3306	9.5856	5.6613	1.4116	0.8033	0.6082	
2002	43.4934	19.8770	23.6164	23.3268	9.7220	13.6046	18.5405	7.1003	11.4402	1.7327	3.0536	0.8890	2.1644	
2003	53.2964	28.7456	24.5508	29.5505	16.3802	13.1703	21.3095	10.2399	11.0696	4.745	3.4960	1.3953	2.1007	
2004	67.9204	36.8249	31.0955	38.2298	21.5352	16.6946	25.4014	12.568	12.8334	6.6898	6.1386	2.2774	3.8612	
2005	95.7216	60.7202	35.0014	56.7643	38.3644	18.4000	36.8537	22.4534	14.4003	12.1419	7.7687	3.7691	3.9997	
2006	128.5729	84.3642	44.2087	66.8693	45.3956	21.4737	46.521	30.5965	15.9245	8.6589	11.6894	6.1402	5.5492	
2007	172.9858	122.6870	50.2988	107.2789	81.7047	25.5742	54.0529	35.1524	18.9005	11.8127	41.4133	34.7396	6.6737	
2008	228.986	165.7389	63.2471	110.6314	79.7057	30.9257	55.7	34.2	21.5	13.1	41.8314	32.4057	9.4257	
2009	162.2	100.8	61.4	55.8000	32.7000	23.1000	34.8	21.3	13.5	10.2	10.8	1.2	9.6	

(注) 1. 1993～1995年の旅行貿易、一般貿易、1993～2000年の辺境小額貿易はデータ無し。

2. 『黒龍江統計年鑑』の通貨単位は千ドルであるが、2009年ハルビン税関の単位と統一させるため、本表では億ドルに変更した。旅行貿易は『黒龍江統計年鑑』中の貿易形式「その他」の数字を使用した。「その他」には加工貿易などの他の形式が含まれている可能性があるが、2001～2005年の他資料「“十五”時期黒龍江省対俄貿易総述」にある「旅行買物輸出」と「その他」の数字がほぼ一致しているため、本表では「その他」を旅行貿易として使用した。一般貿易等は、対ロシア貿易から辺境小額貿易及び旅行貿易を減じた。

(出所) 黒龍江省総貿易、対ロシア貿易・辺境小額貿易、旅行貿易の1993～2008年は『黒龍江統計年鑑』各年版、2009年はハルビン税関『2009黒龍江省外貿運行情況分析』。

に大きな増加を示したのは、機械・電気製品（20.08億ドル、同18.6%）であった。これらのことから2007年までの黒口貿易の急激な拡大は、主として日用消費財の輸出拡大によってもたらされたものであるとみなすことができる。

しかし、2008年には省貿易も黒口貿易も全体として増大した（各々32.4%、3.1%）が、黒口貿易では輸出は前年に比べて減少した（2.4%減少、輸入は20.9%増加）。輸出商品を見ると、この年、布製衣類と靴類の輸出は1999年以降で初めて前年に比べて減少（両品目合計4.2億ドル減少）した。さらに、2009年には省貿易も黒口貿易も、輸出、輸入とも前年に比べて大きく減少した。黒口貿易の輸出は前年に比べて47億ドル減少し、そのうち布製衣類は33億ドル減少した。2008～2009年の黒口貿易輸出の減少は、日用消費財輸出の急激な減少によるものであった。

3-2. 黒口貿易の形式

黒口貿易は、貿易の国家独占の下で、官製「辺境貿易」という形式で始まったが、現在では主として、辺境小額貿易、一般貿易等⁵および旅行貿易の形式で行われている。2009年の黒口貿易55.8億ドルのうち、辺境小額貿易34.8億ドル（62.4%）、一般貿易等10.8億ドル（19.4%）、旅行貿易10.2億ドル（18.3%）であった（表2）。ここでは、3つの貿易形式が比較できる2001年以降の黒口貿易における各貿易形式の影響を見ていきたい。

2001～2007年に黒口貿易は93.56億ドル増加し（年々の増加累計額）、そのうち辺境小額貿易43.92億ドル増加（黒口貿易増加累計額の47%）、一般貿易等37.83億ドル増加（同40.4%）、旅行貿易11.81億ドル増加（同12.6%）であった。このことから、この間の貿易増加には辺境貿易と一般貿易等がほぼ同じように寄与したことが分かる。しかし、一般貿易等は2007年に急激に増加したものであり、この影響を除去した2001～2006年の期間のみと辺境小額貿易の寄与度は68.5%と高く、一般貿易等は15.3%に過ぎなかった。2008～2009年には黒口貿易（輸出入総額）は51.5億ドル減少し（年々の増減累計額）、そのうち辺境小額貿易19.3億ドル減少（37.4%）、一般貿易等30.6億ドル減少（59.25%）であった。以上の分析によれば、2001～2006年の黒口貿易（輸出入総額）では、貿易増大に対する辺境小額貿易の影響

響度が高かったが、2007年以降の貿易減少には一般貿易等の減少が大きく影響したことを示している。つまり、黒口貿易の中心は辺境貿易であり、一般貿易等は黒口貿易の一層の拡大・減少要因となっている。

輸出では、2001～2007年の年々の累計増加額は77.05億ドルで、そのうち辺境小額貿易は33.7億ドル（累計増加額の43.7%）増加、一般貿易等31.54億ドル（同40.9%）増加、旅行貿易11.81億ドル（同12.6%）増加であった。すなわち、この間の輸出増加には辺境小額貿易と一般貿易等がほぼ同じような貢献をしたことになる。しかし、輸出入総額同様、2007年の一般貿易等の増加を除去した2001～2006年の辺境小額貿易の寄与は71.5%であり、一般貿易等は7.2%であった。2008～2009年には減少額は49億ドルで、そのうち辺境小額貿易13.85億ドル（輸出減少累計額の28.3%）減少、一般貿易等33.54億ドル（同68.4%）減少、旅行貿易1.61億ドル（同3.3%）減少であった。輸出でも、輸出入総額同様、辺境小額貿易が中心であることが分かる⁶。

黒口貿易の輸入は、輸出に比べて安定して推移してきた。2001～2007年の増加額は16.47億ドルで、そのうち辺境小額貿易は10.21億ドル増加（62%）、一般貿易等6.26億ドル増加（38%）であった。しかし、2001～2006年の辺境小額貿易の寄与は58.5%に低下し、一般貿易等は41.5%に増加した。2008～2009年には減少額は2.47億ドルで、そのうち辺境小額貿易5.4億ドル減少、一般貿易等2.93億ドル増加であった。輸入では、辺境小額貿易も一般貿易等も、輸出でみられた2007年のような急激な輸入の増加は見られず、安定して推移している⁷。このことが、2009年の黒口貿易の急激な減少においても、輸入が比較的少ない減少でとどまった要因の一つと考えられる。

4. 黒龍江省の貿易における黒口貿易の役割

省貿易と黒口貿易の推移には、回復・発展に若干の年のずれが見られるが、黒口貿易同様、停滞、回復、発展期と2009年の急減期に分けることができる。

1993年の貿易額と省貿易の低迷期において貿易額が最も少なかった1998年の間に、輸出も輸入も同じような低下を示したが（1993年と1998年の低下率は各々46.3%、31.5%）、発展期（2001～2008年）には輸出は輸入を大き

⁵ この区分には辺境小額貿易、旅行貿易以外のすべての貿易が含まれる。

⁶ 2007年に、黒口貿易が急増したのは、一般貿易が急増したためである。この年、黒龍江省貿易企業の省外での通関輸出額が急増した。黒口貿易総額107.3億ドルのうち、省外通関は40億ドルで、輸出は前年に比べて約10倍の28.8億ドル（そのうち深圳税関は24.2億ドル）であった（「2007年黒龍江省対俄貿易運行情况分析」http://guandong_sub.customs.gov.cn/Portal/118/File10.doc）。

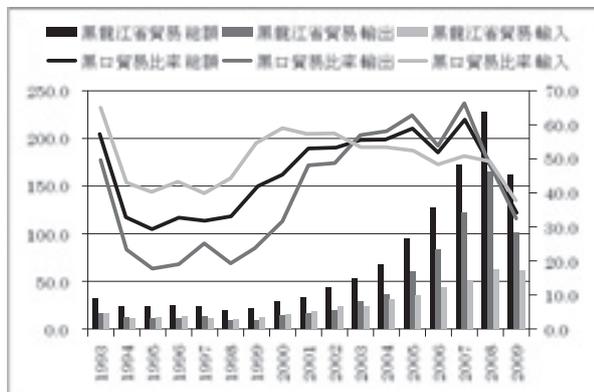
⁷ 2001～2007年の間、黒龍江省の輸入において大きな比率を占める商品は、機械・電機設備、原木、紙パルプ、鋼材など生産に必要な設備・原料であった。2009年に原木の比率は大きく低下したが、それに代わって原油の比率が高まった。このように品目に変化はみられるが、全体として、輸入における商品が、生産に必要な設備・財という性格から輸入が安定していると考えられる。

く上回る伸びを示した（各々10.3倍、3.6倍の増大）。特に2005～2008年の輸出の対前年増加率は輸入を大きく上回るようになった（対前年増加率は2005年64.9%：12.5%、2006年38.9%：26.3%、2007年45.4%：13.8%、2008年35.1%：25.6%）。このことは、2000年代初めからの省貿易の発展が、黒口貿易同様、輸出主導で発展してきたことを示している。このような省貿易と黒口貿易の推移の重なりは、黒龍江省の貿易における黒口貿易の比率が高いということによって説明される。

図2は省貿易額と省貿易に占める黒口貿易比率の推移を図示したものである。

省貿易に占める黒口貿易の比率は、貿易低迷期の90年代

図2 黒龍江省貿易と黒口貿易比率の推移



(注) 左目盛りは貿易額（億ドル）、右目盛りは比率（%）。
(出所) 筆者作成。

には30%台に停滞していたが、2000年以降の黒口貿易の拡大に伴って、2000年の46%から2007年には62%にまで増加した。輸出における比率も輸入における比率も90年代には同じような動きを示しているが、2001年頃から輸出比率のカーブは急激に上昇し、輸入比率は低下し始めた。さらに、2003年からは、輸出における黒口貿易比率は輸入における黒口貿易比率を上回るようになった。このことから、2000年代における黒龍江省の貿易発展は黒口貿易輸出によって牽引されたものであることが分かる。また、この時期、輸入も増加したが、それはロシア以外の国からの増加によるものであることを示している。

5. 黒口貿易と地域経済

一国の総生産と貿易の関係における一つの指標として貿易依存度がある。この指標を黒龍江省という一つの地域に援用してみると、黒口貿易が黒龍江省の地域総生産に占める比率は1999年から2007年まで一貫して増加してきた（1999年2.6%、2007年11.5%）⁸。しかし、このことから黒口貿易の輸出・輸入が地域生産にどのように寄与したのかということは明確にはわからない⁹。しかしながら、中ロ国境間貿易を行っている国境地区を旅すると、そこでは対ロシア貿易が地域経済に大きな影響を与えていることが実感できる。かつては寂れた寒村であった国境の町が、ロシア人を相手とする第3次産業（ホテル、飲食、タクシー、貿易業務など）の発展によって近代的な都市に変貌した様

表3 黒河市の貿易

(単位：万米ドル、%、万人)

	黒河市貿易 総額	一般貿易		辺境小額貿易		辺民互市貿易		ロシア人 旅行者
		総額	比率	総額	比率	総額	比率	
2000	14,680	87	0.6	7,095	48.3	7,498	51.1	9.6
2001	12,784	189	1.5	5,230	40.9	7,365	57.6	4.4
2002	14,419	475	3.3	6,060	42.0	7,884	54.7	3.5
2003	10,902	1,061	9.7	6,616	60.7	3,225	29.6	-
2004	28,904	4,771	16.5	11,797.3	40.8	12,527	43.3	-
2005	58,292.8	17,379.35	29.8	16,625.97	28.5	24,277.27	41.6	-
2006	158,422.22	108,324.26	68.4	18,449.76	11.6	31,532.33	19.9	44.2
2007	236,422.83	151,887.6	64.2	48,064.63	20.3	36,369.05	15.4	52.3

(注) 2004年の辺境小額貿易額は2005年度から計算したため、貿易額合計が市貿易額と合わない。2003～2005年のロシア人旅行者数はデータ無し。

(出所) 貿易額の2000～2004年は『黒河年鑑』、2005～2007年は『黒河市対外経貿運行情況』。ロシア人旅行者数の2000～2002年は『黒河年鑑』、2006～2007年は『黒河口岸入出境人員年度累計表』。

⁸ 黒龍江省の貿易依存度（黒龍江統計年鑑）から、貿易総額に占める黒口貿易比率を乗じて算出。

⁹ 一国における貿易と国民経済の関係は、国境線という閉じられた空間における関係として考えることができる。そのため、輸出はその国の商品の輸出として、輸入はその国の消費もしくは生産への寄与として考えられる。しかし、地域においては、全ての貿易がその地域経済と関係しているわけではない。たとえば、黒龍江省の輸出は、全ての輸出商品が黒龍江省の経済によって生み出されたものであるわけではない。また輸入も、全ての輸入商品が地域内で消費されるわけではない。

をみることができる。黒口貿易がおこなわれている国境都市の多くはこのような恩恵を享受しているが、とりわけ大きな利益を得ているのが黒河と綏芬河である。

表3は黒河市の貿易とロシア人観光客の来訪数の推移を示している。ロシア人の買物である辺民互市貿易は、市貿易のもっとも重要な柱となってきた。ロシア人の来訪は

2007年には52万人に及んでいる。統計上には表れてこないが、これら来訪ロシア人が地域経済に落とす金額はかなりのものと考えられる。綏芬河の場合、時系列データが取れないが、2007年のロシア人来訪者は70万人、互市貿易額は6.5億ドル、旅行業の外貨収入は1.2億ドルであった。

The Current Situation of the Trade with Russia of Heilongjiang Province, China, and the Impact on the Border Areas

HIRAIZUMI, Hideki

Area Studies Center, Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (JETRO)

Summary

The year that the current border trade between the Russian Federation (the former Soviet Union) and the People's Republic of China began was 1957, and at that time, because the trade of both nations was monopolized by the state, it took place as inter-government trade. Inter-government trade between the border areas continued up until 1966, and subsequently was discontinued up to 1982. In 1983 China-Russia trade recommenced once again, and has continued down to the present day.

The area shouldering the greatest role in China-Russia border trade is Heilongjiang Province, which shares an international border with Russia extending more than 3,000 kilometers. The trade of Heilongjiang Province, besides ordinary trade, takes place by way of border trade (small-scale border trade and reciprocal trading by border area residents) and shuttle trading. The border-trade system which gives tax incentives for the fixed trade which the border regions undertake began in 1984. While the tax incentives for the small-scale border trade which enterprises undertake were revoked in 2008, the incentives for the reciprocal trading that individuals undertake were widened. Shuttle trading is trade where people enter the partner country as tourists and carry out commercial exchange, and both Russian and Chinese people are involved. What is shown in the statistics, however, is only the purchasing by visiting Russians, and this came to be reported from the second half of 2000.

The trade with Russia of Heilongjiang Province had developed from 1984 up to 1993, but after going through periods of stagnation (1994-1998), recovery (1999-2001) and development (2002-2007), since 2009 it suffered the backwash from the global financial and economic crisis, and the amount of trade fell sharply. The trade expansion in the recovery and development periods was mainly brought about through the expansion of exports of everyday consumer goods (fabric manufactured garments and footwear). Looking at the expansion in trade with Russia of these periods from the perspective of the method of trade, the largest contributor was small-scale border trade, and shuttle trading also occupied a relatively large share.

The trade shift of Heilongjiang Province also shows a similar shift as with the trade with Russia. This is related to the fact that the trade with Russia has an extremely high percentage share within the trade of Heilongjiang Province. The share of the trade with Russia has grown from the 30% level of the period of stagnation to 62% in 2007.

The trade with Russia is conferring a great many benefits on the small border cities. Large numbers of Russians are making visits on the pretext of travel, and are purchasing large amounts and returning home. Owing to this, tertiary industry is developing, and once deserted border towns are also currently transforming into modern trading cities and showing vitality.

[Translated by ERINA]